

# 夏休みの時期に関する学生の意識調査

大向雅人\*

## Students' Opinions on the Period of Summer Vacation

Masato OHMUKAI

### ABSTRACT

In these days, many universities adopt a summer vacation after the first semester; from the beginning of August to the end of September. Some Kosens follow this system instead of a high-school-like summer vacation from about July 20 to the end of August. Akashi National College of Technology has adopted the college-like summer vacation since 2007. The author conducted questionnaire investigation on which summer vacation period is better for the students. It has become clear that more students prefer the college-like summer vacation because the students do not need to be anxious about the term examination.

**KEY WORDS:** summer vacation, questionnaire investigation, student's preference

### 1. はじめに

従来、日本の高等学校や大学では高専も含め7月20日頃から8月末までを夏休みとしてきた。高等学校は1年間を3学期制としているのに対し、大学、高専では2学期制をとっており、前期を4月から9月、後期を10月から3月とするのが一般的であった。この場合、夏休みが終わって9月に入ると、上旬は授業をやってから9月末に前期期末試験を行い、10月から後期の授業が始まることとなる（以降、旧夏休みと呼ぶ）。しかしながら1980年代から私立大学において、夏休みの開始時期を少し遅らせて、夏休み前に前期期末試験を終えてしまい、9月末までを夏休みとするスケジュール（以降、新夏休みと呼ぶ）を採用する学校が増えてきた。高専では1990年代後半より新夏休みを採用する学校が出てきた。例えば明石高専では以前は旧夏休みを採用していたが2007年から新夏休みのスケジュールを取り入れ、現在に至っている。

2008年の春に3年生以上の全ての学生に対して旧夏休みと新夏休みのどちらのほうが良いかについて大

規模なアンケート調査を行った。1、2年生を対象からはずしたのは、2種類の夏休み両方を経験したのは3年生以上の学生のみだからである。本論文はこのアンケート調査に基づき、旧夏休みと新夏休みのどちらのほうが学生にとってありがたいかを明らかにすることを目的としている。このような調査はこれまで行われておらず、非常に貴重な情報となる。特にこれから旧夏休みから新夏休みに移行することを考えている高専にとって有益な判断材料となるであろう。

高専の夏休みの取り方は、旧夏休みと新夏休みの2つのグループに収まるわけではなく、実は地域や学校によって色々なとり方をしているのが事実である。しかしながら、分析を単純化するためにここではこの2種類に絞って論じる。この2種類の夏休みは前期期末試験（定期試験）が夏休みの前にあるか、それとも後にあるか、という決定的な大きな違いがあるため、その違いを考察するのに好都合であるといえる。

### 2. アンケートの概要

アンケートの用紙は図1に示したように、2種類の夏休みについてどちらが良いかを選択させるという簡

\*電気情報工学科

**夏休みのアンケート調査**

本アンケート調査は夏休みの時期が以前と比べて良くなったか悪くなったかについて学生の意識を調査する目的で行います。集計の都合上、選択の所は必ずどれかを選択するようにお願いします。よろしくご協力お願い申し上げます。

参考：旧夏休み (7/20位-8/31) 新夏休み (8/5位-9/30)

1. 前期期末試験の観点から考えてより良いほうを丸で囲み、その理由を述べてください。

	旧夏休み	新夏休み
理由：		

2. 部活等の課外活動の観点から考えてより良いほうを丸で囲み、その理由を述べてください。

	旧夏休み	新夏休み
理由：		

3. 全ての事情を考慮して考えた場合、当てはまる物を丸で囲んでください。

旧夏休み    新夏休み    どちらもいえない

4. 旧夏休みのほうがより良い上記以外の理由があれば述べてください。

5. 新夏休みのほうがより良い上記以外の理由があれば述べてください。

図1 アンケート用紙

単なるものである。ただし、勉学にとって非常に重要である前期期末試験の観点からと、部活動等(ロボコン等の校内での活動や地域のイベント等を含む)の観点からとで、どちらが良いかを選択させ、さらに結局ど

ちらのほうがより良いかを選択させた。また、前期期末試験と部活動以外で選択の理由を自由に記述させた。

本アンケートは旧夏休みと新夏休みのどちらが良いかを統計的に処理して明らかにすることを第1の目的としているが、理由を自由記述させることにより、学生が夏休みに対してどのような思いを持っているかという情報を引き出すことが2つ目の大きな狙いである。そのため、自由記述にすると結果の処理が非常に大変になるが、敢えて自由記述の方法を採用した。アンケートを回答した数は全学科の合計で、3年生が163名、4年生が155名、5年生が141名、専攻科1年が32名、専攻科2年が22名であった。

### 3. アンケートの集計結果

学年ごとに集計した結果を示す。ただし専攻科生は人数が少ないので1年生と2年生を合計して集計した。図2～図5に3年生、4年生、5年生、専攻科生の集計結果を示す。これらの図からわかるように全体的に同様の傾向がみられる。学年を問わず、定期試験の観点からは8割以上が新夏休みのほうが良いと回答している。部活等の観点からは旧夏休みのほうが良いという割合は多いものの、それでも6割以上は新夏休みのほうが良いと回答している。両方を総合した場合でも旧夏休みのほうが良いと答えている割合はいずれも2割以下になっていることが分かる。したがって大局的には新夏休みのほうが良いと学生が感じていることが明らかとなった。

次にもう少し細かい点を議論する。定期試験と部活動を比べた場合、部活動等から考えると旧夏休みのほうが良いと回答する割合が定期試験の2倍程度に跳ね上がっている。部活動は低学年(1年生から3年生)において他の高等学校と歩調を合わせて大会に参加したり練習試合等の交流があったりすることを考えると、高等学校と同じスケジュールのほうがやり易いことが考えられる。それでもなお新夏休みのほうが良い割合が非常に大きいことはある意味で注目に値する。この点に関しては自由記述について述べた次章でさらに詳しく検討することとする。

総合でみると、旧夏休みのほうが良い割合は定期試験の場合に良く似ており、違いなしを含めると部活等の場合によく似ていることが分かる。このことから、学生は定期試験を重要視していることが数の上からではあるが覗うことができる。

次に学年の違いについて考察する。特に総合での旧夏休みが良いという学生の割合が3年生と4年生で10%を下回っているのに対して5年生と専攻科生では

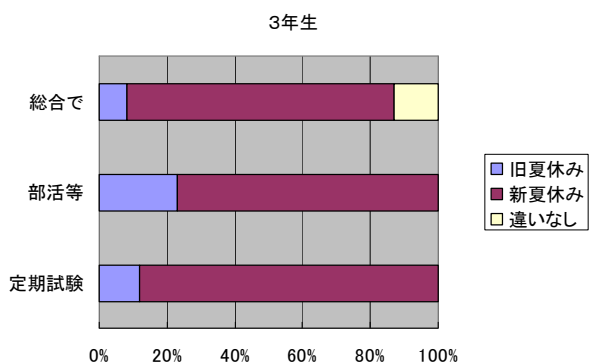


図2 3年生のアンケート結果

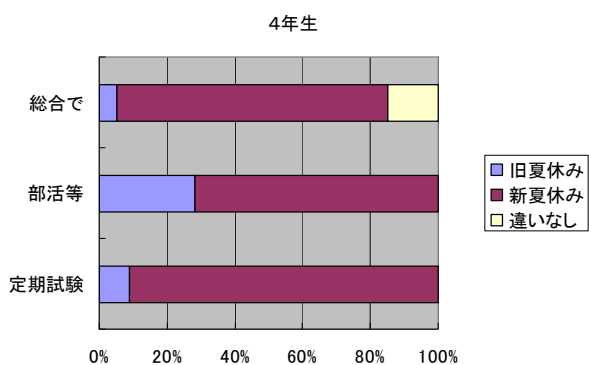


図3 4年生のアンケート結果

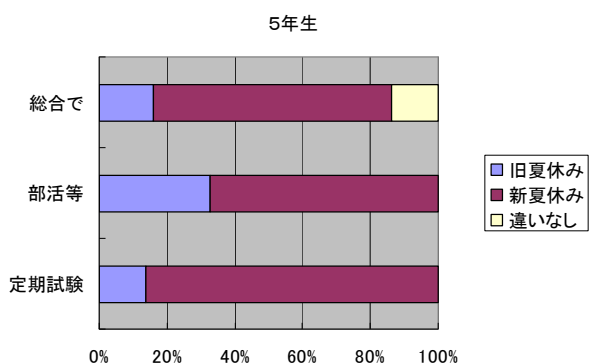


図4 5年生のアンケート結果

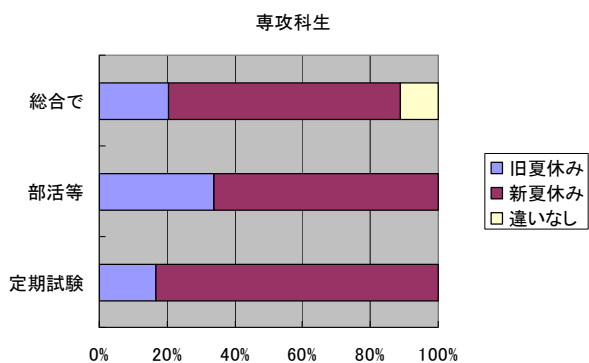


図5 専攻科生のアンケート結果

10%を超えてむしろ20%に近づいている。これは年齢が上がるにつれて臨機応変に対応する能力があがることから、要望にバラエティが出てきているものと考えられることができる。

細かい差は色々出てきてはいるものの全体として新夏休みのほうが良いことは揺るがすことができない結果であることがわかった。

#### 4. 自由記述から見えてくること

自由記述では一方の夏休みが良い理由を述べてもらっているため、学生がどのようなことを感じているかが浮き彫りになる。自由に記述させるので収集がつかなくなる向きもあるが、深い洞察を得ることができる。本アンケートでは同じ内容を記述したものが多数出てきており、非常に興味深い。特に多くの意見が出された内容を中心に紹介しながら考察していく。

定期試験の観点から見た場合、新夏休みのほうが良い理由として最も数が多い記述は夏休み前に前期期末試験が終わっており前期と後期がはっきり別れていて気分的に良いというものである。この意見は全体で136名あり、自由記述でありながら新夏休みのほうが良いと回答した学生の40.6%もの学生が述べている。2番目に多い記述として、新夏休みでは前期の途中で長期の休暇で中断されないので内容を忘れることなく勉強がやりやすいというものである。これは全体で86名であり、25.7%強の人数となっている。否定的な表現で表したものとして、旧夏休みでは夏休み明けにすぐに定期試験があるのは苦しいという記述が全体で35名あった。その他、少数の記述として、休みに試験以外の勉強に専念できる、前期の復習がしやすい、楽しみを後にとっておくことができ勉強を頑張れる、宿題が少ない、などが回答されていた。

数は少ないのだが、旧夏休みのほうが良いとした回答の理由について述べる。3年生、4年生では、前期期末試験が8月上旬という暑い時期ではなく9月下旬にあるから、という回答が多く、合計で8名あり、これは旧夏休みが良いと選んだ学生のうちの24.2%にあたる。それに対して5年生と専攻科生では前期期末試験が大学の編入試験と重ならないからという回答が18名あり、これは実に64.3%にあたる。その他少数意見としては、前期期末試験の後が夏休みだと試験の結果を直後に聞きにくい(特に寮生)、前期中間試験から前期期末試験までが短く感じない、学力補充期間がお盆と重ならない、レポートや宿題が夏休みにしっかりできるから、などが回答された。また補習の勉強がしやすいというものもあるが、これは新夏休みが良いと選

んだ学生にも同じコメントが回答されていることもあり、どっちもどっちであるように思われる。

次に部活等の観点からの場合について述べる。既に述べたように、部活等の観点からは若干旧夏休みのほうが良いという学生の割合が高い。その理由の中で最も主たるものは部活の対外試合が前期期末試験の日程と重ならないというもので、3年生及び4年生をあわせて29名が言及しており、これは38.2%に相当する。その他は、練習試合が他の高等学校と組みやすい、高専祭実行委員の準備がしやすい、寮生は部活がやりやすい、塾のバイトに行きやすい、などがあつた。

逆に新夏休みのほうが良いという学生の理由については9月が丸々夏休みということで、部活動の練習時間が多く取れる、或いはロボットコンテストの準備等に専念できるという、部活動が活発にできるという主旨の意見が全体で51名あり15.2%に相当する。その他の意見として、試験のことを考えずに部活動ができる、在寮中に高専体育大会(地区大会)がある、秋の新人戦の大会前に定期試験がない、デザインコンテストの準備がやりやすかつた、などがあつた。また5年生と専攻科生からは、9月にインターンシップを受け入れる企業があることからインターンシップがやりやすいという意見も出されていた。これらのことから、部活動等について旧夏休みが良いと思う学生が若干多い理由として、部活動の活発な低学年(1~3年生)において高等学校と歩調を合わせた夏休みのほうが日程的に活動しやすいことが要因となっていることがわかる。

最後に定期試験、部活動以外の理由についての自由記述について述べる。新夏休みのほうが良い理由について飛び抜けて多いのが、夏休みが長いという意見で、全学年合計で149名が記述していた。これは新夏休みのほうが良いと選んだ学生の38.9%にのぼる。少数意見としては大学の友人と時間があわせやすい、9月の旅行は安価ですいている、秋の行事に行きやすい、稲刈りを手伝える、インターンシップがやりやすい、免許や資格試験が受けやすい、9月にプールの授業がない、平日も学校以外の趣味等に打ち込める、9月も寮は暑い、長期にわたり学習ができる、卒業研究がやりやすい、などがあつた。ちなみに新夏休みの日程を取るために4月の早い時期に前期をスタートさせており、

その分春休みが若干短くなっている。長い夏休みを学生が色々な方面で有効に活用しようとしている姿を垣間見ることができる。

逆に旧夏休みのほうが良い理由については一番多いものが、高等学校の友人と時間があわせやすいというものであり、全学年合計で13名いた。これは全体の24.1%にあたる。しかし、13名全員が3年生であつた。そのほかの意見では、長すぎない、暑いときに休める、花火大会や祭り(8月初め頃)が定期試験と重ならない、蟬のうるさい時期に休める、割引切符が買いやすい、などがあつた。

以上を総合すると次のように言うことができる。長い夏休みを有効に利用するためにも、前期期末試験が全て終わった後に夏休みに入る新夏休みのほうが望ましい。また、9月の1ヶ月間が丸々休暇となることは色々な意味で有効活用ができ、非常に有益である。しかし、欠点がないわけでもない。7月末から8月にかけて非常に暑い時期を寮や学校で過ごさねばならず、部活動において高等学校とスケジュールが食い違ってしまうことが大きい欠点であると考えられる。しかしインターンシップなど大学と歩調をあわせるためには新夏休みのほうが都合よく、高等学校に合わせた場合と大学に合わせた場合で一長一短が出てくるのは当然のことである。数字からみて、多数の意見として新夏休みが大きく支持されていることが明らかとなつた。教員にも同様のアンケートをとったところ、新夏休みのほうが良いと回答した割合は、試験の面からは63.2%、部活動の面からは50%、総合してでは63.2%となり、学生にとどまらず教員サイドでも新夏休みを支持する傾向が強いことを申し添えておく。

## 5. さいごに

本論文では7月20日ごろから8月末までを夏休みとする旧夏休みと、8月9日頃までに前期期末試験を終えてしまい9月末まで夏休みとする新夏休みのどちらのほうが学生にとって受け入れやすいかについて、両方の夏休みを経験した学生のみに対してアンケート調査を行った結果について述べた。旧夏休みと新夏休みでは一長一短があるが、新夏休みのほうが多くの学生がより希望していることが明らかとなつた。